

循環温浴器

温泉天国



KTシリーズ

取扱説明書（I）

運転操作マニュアル

このたびは本製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。
ご使用になる前に必ず“本書”をよくお読みになり、正しい使用方法、操作方法を十分に理解してから使用してください。
正しい使用方法、及び操作方法を理解しない状態で本製品を使用～運転することは、重大な事故・ケガの発生のもとになります。

本書は・・・・・・・・・・

本書は本器の使用時の“安全上の注意”“禁止事項”“注意事項”及び“運転（操作）方法”等を説明しています。

お手入れは・・・・・・・・・・

本製品には定期的に“お手入れ”が必要になります。
別冊の「保守・点検マニュアル」に従った“お手入れ”を“定期的”に行うことにより、本体機能をより良く維持することができ、また本体性能を十分に活用頂けます。

本書の取り扱いは・・・・・・・・

各取扱説明書（マニュアル）をお読みになり、理解した後は、必要時にすぐに取り出せて、すぐ読めるところに保管してください。
また取扱説明書を破損または紛失された場合は、販売店、もしくは弊社営業部までご依頼ください。

お客様へのお願い・・・・・・・・

試運転は設置工事店（販売店）の立ち会いのもとで行ってください。
また、使用方法、温度の設定方法、お手入れの方法等の正しい使い方を設置工事店（販売店）から説明を受けてください。
誤認から起こる誤った操作は重大な事故につながります。

本書の内容は・・・・・・・・・・

ご使用のまえに・・・・・・・・

浴槽に関する注意・・・・・・・・・・	2
運転するまえに・・・・・・・・・・	2
安全上の注意・・・・・・・・・・	3～4
使用上の注意・・・・・・・・・・	5～6
使用上のお願い・・・・・・・・・・	7～8

運転のまえに・・・・・・・・

本体の確認・・・・・・・・・・	9
漏電ブレーカーの作動確認・・・・・・・・・・	9～10

運 転・・・・・・・・

電源を入れる・・・・・・・・・・	10
温度を設定する・・・・・・・・・・	11～12
運転を切り替える・・・・・・・・・・	13～14

ご使用のまえに（必ずお読みください。）

浴槽に関する注意

浴槽は・・・・・・・・

屋内の浴槽を対象にしています。
露天風呂等の外部環境が影響される浴槽には適しません。

浴槽への影響は・・・・

変色～膨れの恐れのある浴槽材質
一部のポリエステル系人造大理石浴槽
一部のポリエステル系樹脂浴槽

- お願い - 上記に掲げる浴槽材質では浴槽表面に変色・膨れ等をきたす場合が希にあります。これらに該当する浴槽では本器の“オゾン”の使用を控えてください。（オプション販売のオゾン発生器を接続された場合）また上記以外でも“使用年数”や“リフォーム”等により、浴槽に影響をきたす場合があることをご了承願います。
- お断り - 万一にも変色された場合の物品損失の問題には、弊社は一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

運転するまえに

本器の設置は設置工事店（販売店）が行います。これに先立ち、お客様は浴槽、及び浴槽に接続される機器を市販品の浴槽洗浄剤を用いて洗浄してください。

浴槽の洗浄・・・

浴槽の内部を市販品の浴槽洗浄剤を用いてよく洗浄し、十分なすすぎを行ってください。

特にステンレス及びホーロー浴槽の表面に金属粉があると本器の使用にかかわらず金属粉が腐食（錆）し浴槽表面に定着することが希にあります。また浴槽表面に傷等があると傷内に湯垢が定着し、浴槽が変色したように見えます。

接続機器（ボイラー／熱交換器／追い焚き釜等）の洗浄・・・

浴槽に接続される機器（ボイラー／熱交換器／追い焚き釜等）は市販品の釜洗浄剤、またはパイプ洗浄剤を用いて洗浄を行い、十分なすすぎを行ってください。

浴槽がきれいでも、それに接続される機器等の内部が汚れていると本器の性能が発揮されず、浴水の濁り、及び異臭の発生につながります。

接続機器等の洗浄は、購入された洗浄剤の取扱説明書を参照して行ってください。

- ご注意 - 洗浄時は、接続機器等の“取扱説明書”を参照し、“注意事項”を確認してから行ってください。

安全上の注意（必ず守ること）

濡れた手で“漏電ブレーカー”の操作をしないでください。
“感電の恐れ”があり、非常に危険です。

お客様が電装ボックス内で操作できるのは“漏電ブレーカー”だけです。

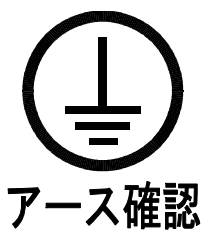


電装ボックス内には“高圧電流”が流れています。

濡れた手で操作しない。
配線部はさわらない。
操作後は扉を完全に閉める。

アースは必ず接続（業者へ確認）してください。

アースが確実にないと本器の“安全使用”が望めません。



アースに不備があると本器の安全装置が働きません。
また、漏電ブレーカーが“正常に作動しません”。

設置工事の完了時に“工事店”へ、アースの接続（接地）確認を行ってください。
アース接地工事の種類は“D種接地工事”区分に該当します。

定期的に“漏電ブレーカーの作動確認”を行ってください。

最低でも“お手入れのとき”または“1カ月に1回”行ってください。



運転中

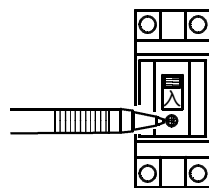
テストボタンを押す

電源遮断“OK”

レバーを上げる

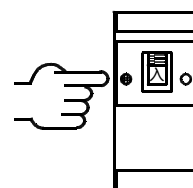
運転再開

610クラス



テストボタンを押す
先の細いもの（ボールペン等）を用いて軽く押す

1200～クラス



テストボタンを押す

電源がすぐに遮断されない場合は、漏電ブレーカーの不具合、または故障が考えられます。この場合はすみやかに販売店へ連絡してください。

この確認を行った場合、温度設定は“40”へ戻ります。もう一度希望の温度設定を行ってください。

入浴中に地震等の“天災地変”が発生した場合はすぐに“浴槽外へ避難”してください。



地震のときは！

地震等の“天災地変”等に起因される事故・ケガ・物品損失（損害）は“保証の対象外”となります。

小さなお子様は必ず大人の方といっしょに入浴してください。

お子様はノズルから“一番はなれた位置”で入浴させてください。



お願い

小さなお子様には下記の注意“してはいけないこと”を説明し、監視下のもとに入浴してください。

ノズルに近づかないこと！
ノズルにさわらない。指を入れないこと！

ノズルは“強力な吸引・吐出力”で浴水を循環させています。小さなお子さまがノズルに近づいた場合転倒する危険があります。

運転中の吸入ノズルに“手”“足”“身体”をつけないでください。



接触禁止

運転中の吸入ノズルに“手”“足”“身体”をつけると“強力な吸引力”により吸着され、事故・ケガの発生する恐れがあります。

運転中の吸入口にさわらない！
運転中の吸入口の付近に足をおかない！
運転中の吸入口に身体を近づけない！

本体、コントローラー、電装ボックスの“分解”“改造”は絶対にしないでください。

本製品の“構成品”は“純正品”を使用してください。



分解禁止

お客様で本器の“分解”“改造”はしないでください。本器の設置・運転・循環ろ過に使用する“構成品（内容品及び付属品）”は“純正品”を必ず使用してください。

これらを守らない故障は“保証の対象外”となります。



使用上の注意

オゾン・塩素剤等で殺菌を行ってください。

殺菌装置等はオプションで販売しておりますので、販売店までお問い合わせください。

オゾン化気泡を吐出したまま入浴しないでください。

お客様の体質により、長時間の吸引を続けることにより、気分を害する場合があります。

オプション販売のオゾン発生器を接続された場合

本器の使用中に皮膚に湿疹・発疹が発生した場合は、すぐに本器の使用を中止し、すみやかに医師の診断・治療を受けてください。

浴槽の湯（循環ろ過水）は飲めません。

本器は“循環ろ過”及び“保温”を目的としています。飲用水は作れません。

浴槽内に“ヌメリ”が付着した場合は、ふき取ってください。

浴槽内が滑りやすくなり、事故・ケガの起因になる恐れがあります。の発生や本体内部の故障につながります。

構成部品は必ず装着して、使用してください。

吸入・吐出ノズルの部品、フィルター・ろ材をはずした状態での運転はやめてください。本来の性能が発揮されないばかりでなく、事故・ケガの発生や本体内部の故障につながります。

入浴中にタオル等の繊維を浴水の中に入れてください。

ペット等の動物といっしょに入浴しないでください。

市販の入浴剤は使用しないでください。

入浴剤（医薬品、医薬部外品を問わず“浴用入浴剤全般”を示します）は本体内部の機構、お湯の浄化などに悪影響を与えます。

使用すると フィルターのろ過能力の低下、目詰まり及び変質
ろ材のろ過能力の低下、目詰まり及び変質
ポンプ内部の摩耗・損傷
センサー類の機能障害及び故障
循環経路の目詰まり
浴槽の変色
付属機器等への悪循環
につながります。

入浴剤の詳しい内容につきましては販売店にご相談ください。

本器、コントローラーに、お湯・水をかけないでください。

コントローラーの操作は必ず指先で行ってください。

追い焚きや給湯をする場合、浴水温度が50 以上にならないようにしてください。

50 以上のお湯（熱湯）になりますと、ノズルが変形する恐れがあり、湯温が80 以上になると変形を起こします。

おことわり

上記の“使用上の注意”が守られないことから発生した本体～備品の故障は“保証の対象外”となり、“有料修理”となることをご了承願います。



使用上のお願い

使用する浴水は水道水を使用してください。

これ以外の場合は販売店にご相談ください。

ご使用当初、浴水が白濁する場合があります。

“ろ過能力”が保たれるまでの間、白濁する場合があります。この場合は浴水を交換してください。通常1～2週間でろ過能力が安定します。

フィルター、ろ材は“消耗品”です。

お手入れを怠った場合、また常にお手入れをしても長期間の使用には、“劣化”が生じます。また、フィルター及びろ材を洗浄しても、“ろ過能力が持続しない場合”には交換（新規購入）してください。これらの“消耗品”は販売店で取り扱っています。

本器のヒーターは“浴水を保温”する目的で内蔵されています。

水道水から入浴温度（40 前後）まで昇温させる目的には適しません。

吐出ノズルより水位（浴水面）を下げないでください。

入浴後でも“吐出ノズルより10cm以上上方”に水位があるように給水（補水）してください。

瞬時停電、停電が発生した場合、設定温度が40 に戻ります。

再度、希望温度に設定してください。

循環器本体の上に物を置かないでください。

浴室内の換気を定期的に行ってください。

浴室を長時間（長期間）密閉状態にすると浴室内に“結露”が発生し、“カビの発生”につながります。

入浴時以外は保温のために、浴槽に蓋を使用してください。

夏期等において“浴水温度”が“設定温度より高め”になる場合があります。この症状は故障ではありません。

外気温、及び浴室内の温度が高い環境下では“循環器本体の発生熱”と“環境温度”が関係し、本器の内蔵ヒーターの使用に関係なく“設定温度より高めの湯温状態”になる場合があります。この場合は浴水へ給水して、浴水温度を調整してください。

潮風が直接あたる海浜地域・温泉地域や工業地域などの特殊地域での設置～使用は販売店とよく相談してください。

本体（外部材質）の劣化～損傷が発生しやすくなります。
販売店と相談し、屋内に移設するか、または本体に囲いを設けるようにしてください。

運転のまえに

本体の確認（運転開始、また運転再開の毎に“必ず確認”してください。）

注意：下記の項目に不備があると運転はすみやかに行えません。

1. 電装ボックス内の漏電ブレーカー（メインスイッチ）が“切”になっていること。
“漏電ブレーカーの位置”は右のページを参照してください。
2. 浴槽の水位が“吐出ノズルより10cm上方”に位置すること。
水位が足りない場合は、浴槽内へ給水してください。
3. 本体の各タンク（フィルター、ろ材）内が“満水”になっていること。
満水でない場合は、タンク内に給水してください。
4. 本体の各々のアクリル蓋が“不具合なく”装着されていること。
“不具合なく”とは、
アクリル蓋が“偏芯”していない！
蓋内のパッキンが“欠落”していない！
全てのノブネジが“均等”に閉まっている！
を示します。
不具合がある場合は、それらを改善してください。
5. 本体内部（ポンプ周辺）が“濡れていない”こと。
本体内部が濡れている場合は、乾いたタオルで拭き取ってください。
6. 本体の“排水バルブ”が“全閉”になっていること。
7. 本体へ接続される吸入・吐出配管上のバルブが“全開”になっていること。

⚠ 注 意

吸入バルブ及び吐出バルブを“全閉状態”のまま電源を入れると
本体破損（タンクをつぶれ、または膨張破裂）へつな갑니다。

漏電ブレーカーの作動確認

必ず上記の“本体の確認1～7”を終了してから行ってください。

⚠ 危 険



感電の恐れあり。

濡れた手で漏電ブレーカーの操作をしないこと。
電装ボックス内で“漏電ブレーカー以外”はさわらないこと。

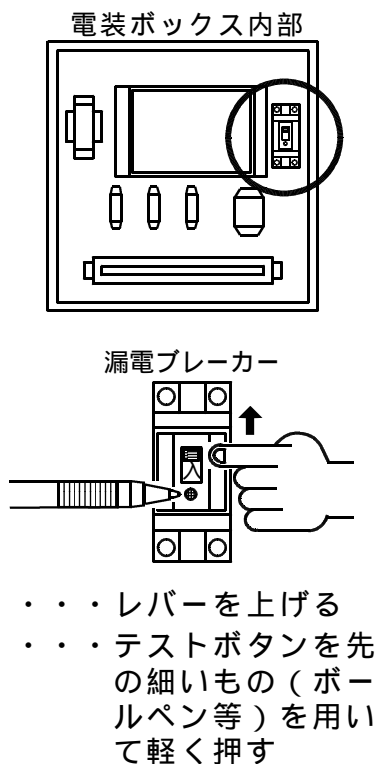
1. 電装ボックスの扉を開け、漏電ブレーカーを確認してください。
“漏電ブレーカーの位置”は下の図を参照してください。
2. 漏電ブレーカー（メインスイッチ）のレバーを上へあげてください。
3. すみやかに、漏電ブレーカーの“テストボタン”を押してください。レバーが瞬時に落ちます。

各クラスにより“テストボタン”の位置が異なります。
下図を参照してください。

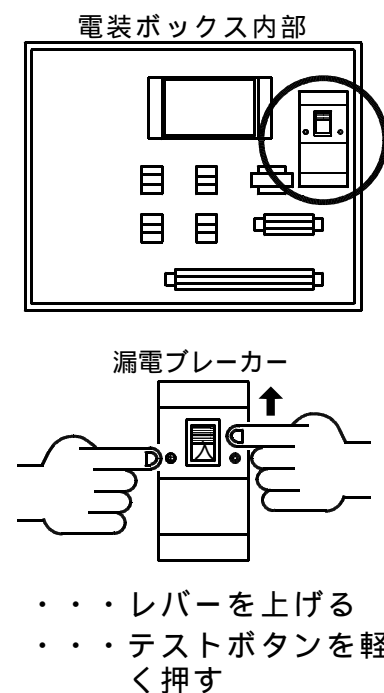
⚠ 注意

レバーが瞬時に落ちない場合は、すみやかに販売店へ連絡してください。

610クラス



1200～3500クラス



運 転

電源を入れる

1. 漏電ブレーカー（メインスイッチ）のレバーを上へあげてください。

レバーを上げると本体、及びコントローラーに電源が入り、循環が開始されます。

⚠ 注意

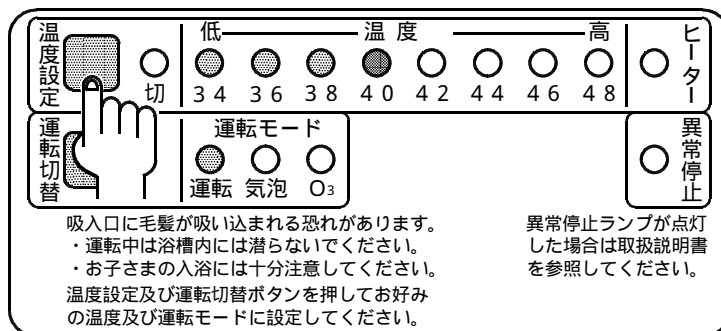
漏電ブレーカーが瞬時に働く場合は、すみやかに販売店へ連絡してください。

2. 電装ボックスの扉を完全に閉めてください。

コントローラーの操作

コントローラーの操作は、本体が“循環状態”でないとできません。
電源を入れた直後の約30秒間は“運転ランプが点滅”します。この間はコントローラー操作を受け付けず“温度設定”及び“運転切替”の操作はできません。

温度を設定する



温度設定・・・・・・・・温度設定スイッチを操作します。

1. 湯温表示の状態ですwitchを1回押してください。

現在の設定温度を“点滅表示”します。

2. “点滅表示中”にswitchを“もう一度”押してください。

表示数値を基準に設定温度が2 間隔で、下記のように移動します。

40 42 44 46 48 切 34 36 38 40に戻る。

初期設定

ヒーター:OFF(循環のみ)

3. 操作2を繰り返し、希望する数値(温度)に設定してください。

設定を完了すると約10秒後に確定され、表示は“点滅”から“点灯”に変わります。さらに約10秒後、通常表示(湯温表示)に戻り、約1秒後にヒーターの制御(ON~OFF)を行います。

確定した温度設定は、もう一度“温度設定”スイッチを押すまで、または電源が“遮断”されるまで続きます。

おことわり・・・・・・・・設定温度が40 に戻る現象がありますが、これは故障ではありません。

瞬時停電、または一時的な電源遮断が生じると本器の設定温度は解除され、“初期設定の40 ”に戻ります。

温度表示・・・運転中の通常表示は“湯温表示（現在湯温）”です。

湯温が 33 以下の場合・・・温度表示ランプは全消灯。

湯温が 34 ~ 48 の間・・・温度表示ランプは各々の温度まで点灯表示。
42 の場合、34 ~ 42 の全ランプが点灯。

湯温が 49 以上の場合・・・温度表示ランプは全点滅。（0.5 秒間隔）

おねがい・・・表示の温度は“めやす”としてください。

湯温表示は“本体内部の循環水の温度表示”であり
“浴水の実温”と若干の差が生じる場合があります。
この症状は“外的環境”の影響を受けたり、または
“本体～浴槽の配管距離”“配管の保温性”により
変わります。また、夏場等では設定温度より高めの
湯温表示になる場合がありますが、これは故障では
ありません。

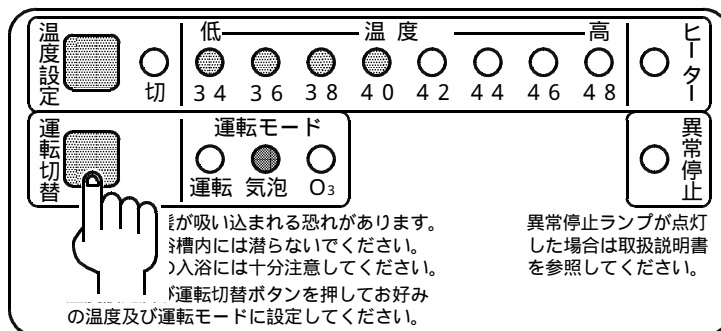
ヒーター表示・・・ヒーターの作動を知らせます。

浴水が設定温度より低い・・・ヒーターが作動し、ランプが点灯します。

浴水が設定温度に達した・・・ヒーターが停止し、ランプが消灯します。

温度設定が“切”の場合は、ヒーターは作動しません。通常運転中において
は“循環ろ過のみ”の運転になります。

運転を切り替える



運転切り替え・・・運転切替スイッチを操作します。

1. スイッチを1回押してください。

現在のモードが“点滅表示”になります。

2. “点滅表示中”にスイッチを“もう一度”押してください。

運転モードが切り替わります。

3. 操作2を繰り返し、希望する運転（モード）に設定してください。

設定を完了すると約10秒後に確定され、表示は“点滅”から“点灯”に変わります。さらに約1秒後、設定されたモードの運転制御を行います。

運転には 運転 気泡 O₃=オゾン の3種のモードがあります。

O₃=オゾン モードはオプション販売の“オゾン発生器”が本体へ接続されていないと設定できません。

確定した運転は“モードの終了”または電源が“遮断”されるまで続きます。

おことわり

本器の運転モードは4種のモードに大別され、15種の個別モードの選択があります。この個別モードは本体の設置時に工事店（販売店）がお客様に説明し、確認のもとに設定しています。設定の確認、または設定を変えたい場合は工事店（販売店）へ“必ず連絡”してください。

“お客様で設定を変えることはできません”

運転表示・・・運転には 運転 気泡 O₃=オゾン の3種のモード
があり、現在のモードを“点灯”で表示します。
O₃=オゾン モードはオプション販売の“オゾン発生器”
が本体へ接続されていないと表示できません。

異常停止表示・・・ランプが点灯した場合、ヒーター及びポンプが停止します。

原因：循環水または本体のタンク内が高温（60 以上）になった場合です。
給湯、追い焚きのしすぎ、循環障害、ヒーターの空焚き等が原因です。

処置1：電装ボックスの漏電ブレーカー（メインスイッチ）をすみやかに切り、
原因を究明し、障害を削除してください。

処置2：浴水温度を下げ、しばらくしてから漏電ブレーカー（メインスイッチ）
を入れてください。

原因不明の場合はすみやかに販売店へ連絡してください。

製 造 元

株式会社 ケネックス

〒945-1345 新潟県柏崎市大字下田尻328-1

TEL 0257-47-7890 ・ FAX 0257-28-5506